

日本都市社会学会ニュース

No. 69 (2004.11.15)

発行：日本都市社会学会

事務局：〒156-8550 東京都世田谷区桜上水3-25-40

日本大学文理学部社会学科 後藤研究室内

E Mail：UrbanSocio@chs.nihon-u.ac.jp

FAX：(03)5317-9423

(郵便振替口座：00140-4-703976)

ホームページURL：http://www.soc.nii.ac.jp/urbansocio/

第 22 回 大 会 の 報 告

日本都市社会学会第22回大会は、9月4日、5日の両日にわたり、大阪市立大学杉本キャンパス（学術情報センター）で開催されました。参加者は131名（会員99名、非会員32名）を数え、シンポジウムや自由報告部会、また懇親会の場でも活発な議論が展開されました。

今大会の特徴の一つは、2本のシンポジウムが持たれたことでしょう。まず、初日午後には、本学会とCOE 大阪市立大学都市文化研究センターとの共催で公開シンポジウム「都市空間に働く権力作用と人間 - 大阪を〈都心周縁〉から読み解く」が開かれました。大阪の都市形成を歴史的と空間的に読み解くといったマクロな視点からの議論と、都市空間でせめぎ合う公的機関とインナーエリアの住人・諸組織との関係分析といったミクロな視点からの議論とが展開され、一般参加登録者54名を含めた170名の参加者は、「国際集客都市・大阪」とは別の都市のリアリティを把握できたのではないかと思います。研究としての議論と政策・まちづくり論との方向性の違いなど、いくつか難しい点はあるものの一般参加者を交えてのこのような現状分析の試みは、今後も機会があれば積極的に企画してゆくべきではないか、と感じました。

2日目のシンポジウム「住宅政策と都市社会学 - 政策形成における都市社会学の可能性」では、本学会からの登壇者、コメンテーターの他、日本の住宅政策の中枢におられた行政官、総合政策学の研究者の方をおまねきし、都市居住の動態の把握と都市居住政策の課題、それへの都市社会学の可能性などが議論されました。生活構造論をベースとした居住政策の必要性、NPO や地域集団を交えた合意形成プロセスの重要性等々、コミュニティ論をはじめとする数々の都市社会学視座の有効性をあらためて認識するとともに、それをいかに政策実践の場につなげてゆくのか、といった都市社会学（というより社会学）の展望についても考えさせられたシンポジウムであったと思います。

また、自由報告も両日にわたり2部会ずつ、計4部会（報告数22本）もたれ、活発な議論が展開されました。聞きたい報告が重なるということもありましたが、これは時間的制約から仕方がないことだと思います。

自由報告、シンポジウムを通して今回印象深かったのは、都市の空間構造と生活行動・社会関係に注目した研究が多かったことです。都市地理学や経済地理学などとの連携とともに、都市社会学の理論と方法の可能性についても再考する機会を与えてもらった学会でした。

最後になりましたが、すばらしい環境で討議や懇談ができましたことを開催校の皆様方や事務局の皆様方に感謝したいと思います。

（北九州市立大学 稲月 正）

2004 年度総会の記録

総会は、大会1日目の9月4日(土)、下記の次第に沿って行われました。

1. 開会の辞 (玉野和志常任理事)
 2. 会長挨拶 (松本康会長)
 3. 開催校挨拶 (大阪市立大学大学院 中村圭爾文学研究科長)
 4. 座長推挙 (三浦典子会員を選出)
5. 報告
- (1)2003 年度企画委員会報告
田中重好常任理事より、2003 年度の企画委員会の活動などについて報告がありました。
 - (2)2003 年度編集委員会報告
渡戸一郎常任理事より、2003 年度の編集委員会の活動などについて報告がありました。
 - (3)その他
松本会長より、学会事務センター破産についての事情説明と、その後の学会としての対応について説明がなされました(3 頁参照)。
6. 議事
- (1)2003 年度決算報告・監査報告承認の件
後藤範章理事より、2003 年度決算報告(4 頁参照)について説明があり、広告収入に関して、事務局移転に伴う新旧学会事務局間、また旧学会事務局と編集事務局間の連絡の不備により広告費が未請求のままであったとの報告がなされました。ついで江上渉監査より監査報告があり、異議なく承認されました。
 - (2)2004 年度予算案承認の件
後藤理事より、2004 年度予算案(4 頁参照)について、特に03 年度分を合わせた広告収入、事務局員交通費や年報販売業務(後記(5)参照)に関わる予算上の変更点を中心に説明があり、異議なく承認されました。
 - (3)日本都市社会学会規約改正について
松本会長より、日本都市社会学会規約について、新入会員の承認を理事会にて行う、4 条の事務局長を削除し、7 条のそれを事務局担当理事に改めるなどの改正案が示され、異議なく承認されました。改正部分は下記の通りです。
また規約改正後、今年度新入会員 20 名の紹介が行われ、拍手をもって迎えられました(会員異動欄参照)。
- 日本都市社会学会規約
3. 本会の会員は、規約に賛同し、会員 1 名以上の推薦があり、かつ理事会および総会の承認を得た者とする。
 4. 本会に下記の役員等をおく。
 - (1)会長 1 名 (2)顧問若干名 (3)理事 8~9 名(うち常任理事 3 名)
 - (4)監査 2 名 (5)委員若干名 (6)事務局長 1 名、事務局幹事若干名
 7. 本会に下記の機関をおく。
 - (5)事務局(会長、常任理事、および会長の指名する事務局長事務局担当理事・幹事を以て構成する)
- 付 則
10. 本規約は2004 年9月4 日より施行する。

(4)都市社会学会年報投稿規定および執筆要項の改正について

渡戸常任理事より、日本都市社会学会年報投稿規定および執筆要項について改正案が示され、議事の結果承認されました。改正部分は以下の通りです。

投稿規定

5. 査読終了後、掲載が決定した場合は完成稿をフロッピーディスク(原則としてMS-DOSのテキストファイル)で提出すること。

執筆要項

4. 原稿の書式は以下の原則に従うこと。
(6) 図形および図表は、原稿中に挿入箇所を指示すること。
なお、図表は原稿ファイルとは別に、電子データまたは版下として使えるハードコピーで提出すること。また、表はEXCELで作成することが望ましい。
7. 投稿原稿は、本文中には執筆者名を記載せず、投稿の種類別、表題(日本語と英語)、執筆者名(ふりがなを付ける)、所属・職位、連絡先、E-mail Addressを明記した別紙を添付して提出すること。査読の結果、改稿、再提出を求められることがある。
8. 査読終了後の完成稿は、印刷原稿を添えてフロッピーディスク(原則としてWORDまたはMS-DOSのテキストファイル形式)で提出すること。

(5)日本都市社会学会年報販売の今後の方針について

松本会長より、(旧学会事務センター破産を受けての)日本都市社会学会年報販売の今後の方針について、旧学会事務センターと締結していた委託販売契約を解除する、当面の措置として学会事務局が販売業務を行う、その分の人件費等を学会事務局費に上乗せする、との提案がなされ、異議無く承認されました。

(6)第23回大会開催校と大会日程について

松本会長より、来年度の第23回大会が大妻女子大学を会場として、2005年9月6日(火)・7日(水)の両日に渡って開催されることが報告され、承認されました。また、同大会開催校を代表して大妻女子大学 久保田滋会員より挨拶がありました。

(7)次期事務局について

玉野常任理事より、次期学会事務局について、候補先の絞り込みも含め、来年度の移転に向けて鋭意調整中である旨が報告されました。

7. 閉会の辞(玉野常任理事)

学会事務センター破産にかかわる本学会の対応に関するご報告

2004年8月17日午前9時に財団法人学会事務センターが破産しました。本学会では、機関誌『日本都市社会学会年報』の販売を委託しておりましたが、総会報告にありますように、販売契約を解除し、今後は学会事務局にて、直接販売することが決定されました。

その後、破産管財人から問い合わせがありましたので、販売契約を解除する旨を正式に文書で回答しました。これにより学会事務センターにある『年報』在庫約200冊は、学会に返却されることになりました。また、本学会の学会事務センターに対する負債額は、『年報』の売上代金21,420円(22号の予約購読料を含む)であることが判明し、この分を債権として管財人に届けてあります。ただし、配当の見込みは薄いものと思われます。以上で、学会事務センター破産にともなう事務手続きはすべて終了いたしました。『年報』の販売方法につきましては、「会員の皆様へのお知らせ」第4項をご覧ください。(会長 松本 康)

2003 年度決算報告および 2004 年度予算

2003 年度決算

収入				支出			
項目	予算	決算	備考	項目	予算	決算	備考
入会金	12,000	24,000	12人分	消耗品費	50,000	75,676	文具、封筒等・事務局移転による
学会費	1,125,000	1,140,000	一般158人分 学生41人分	通信費	250,000	184,215	
広告収入	45,000	0		ニュース印刷費	80,000	84,735	350部×4回
雑収入	20,000	40,875	預金利息、複写権収	年報印刷費	350,000	350,000	
年報販売	113,700	105,840	学会事務センター 経由84冊	自由報告要旨集印刷費	70,000	53,025	350部
				名簿印刷費	70,000	46,200	
				大会開催費	120,000	120,000	
				役員・委員会費	130,000	72,163	委員交通費を含む
				事務局費	300,000	288,500	事務局員手当、アルバイト代を含む
				編集事務局費	150,000	64,305	
繰越金	1,041,675	1,041,675		予備費	782,227	44,324	学会賞状・記念品および 越智元理事ご葬儀献花・香典代を含む
計	2,357,375	2,352,390		計	2,352,227	1,383,143	
				次年度繰越金		969,247	

2004 年度予算

収入			支出		
項目	予算	備考	項目	予算	備考
入会金	40,000	20人分	消耗品費	50,000	文具、封筒等
学会費	1,170,000	一般190人分 学生55人分	通信費	185,000	
広告収入	100,000	03,04年度分	ニュース印刷費	80,000	350部×3回
雑収入	40,000	複写権収入等	年報印刷費	530,000	500部(ハーベスト社に版下作成・印刷製本を業務委託)
年報販売	110,000		大会開催費	120,000	
			役員・委員会費	130,000	委員交通費を含む
			事務局費	400,000	事務局員手当、アルバイト代、事務局員交通費及び年報販売業務費を含む
			編集委員会事務局費	80,000	編集関係通信費、事務局員手当を含む
			予備費	854,247	秋元元理事ご葬儀献花・香典代等
繰越金	969,247				
計	2,429,247		計	2,429,247	

会員の皆様へのお知らせ

1. 会費納入のお願い

まだ学会費を納入されていない会員には、学会費納入用の振込用紙を同封しましたので、早めに納入いただきますようお願いいたします。なお、前年度(2003年度)までの学会費が未納となっている会員には『年報』をお送りできませんので、ご了承下さい(事務局が学会費納入を確認次第、年報をお送り致します)。また、継続して5年以上会費を滞納している会員は、2004年度中に滞納分の会費を納入していただけない場合、会員の資格を失うこととなりますので、ご注意下さい。

2. 第23回大会開催について

第23回大会は、2005年9月6日(火)・7日(水)に大妻女子大学(唐木田キャンパス)にて開催されることが、第22回大会の総会で決定されました。

3. 理事会報告

(1)2003 - 2004 年度第5 回理事会報告

9月3日(土)15:00より、第5回理事会が大阪市立大学で開催されました。本理事会では、学会事務センター破産に伴う対応の協議と、『年報』の販売業務の件、日本都市社会学会規約および日本都市社会学会年報の投稿規定・執筆要項の改正案の作成、事務局移転の件など、第22回大会時の総会に諮る諸事項について審議が行われました。具体的な内容につきましては本ニュース掲載の総会記録をご覧ください。

4. 年報の販売方法の変更について

最新号、バックナンバーにかかわらず、1冊につき2,100円(送料込み)で販売します。ホームページに在庫数を掲載しましたのでご確認の上、郵便振替用紙に必要事項(必要な号と冊数/氏名・送付先住所・電話番号など)を明記し、代金を先に振り込んで下さい(郵便振替口座: 00140-4-703976 日本都市社会学会)。郵便局より学会事務局に振込の通知が届き次第、年報をお送りします。また、大学図書館や研究室で購読を希望される場合は、学会事務局宛にE-mail又はファックスでお申し込み下さい。必要書類をお送りします。詳細については、都市社会学会のホームページをご覧ください。 URL <http://wwwsoc.nii.ac.jp/urbansocio/>

学会事務局より

第22回大会も多数のご参加をいただき、成功裡に終わることができました。谷富夫先生をはじめ大阪市立大学の皆さま、松本会長をはじめ学会の役員・委員の皆さまのご尽力に心から感謝致します。

『日本都市社会学会年報22 環境の都市社会学 サステナビリティの視点から』を大会当日に配布致しました。大会に参加されなかった会員で昨年度までの会費納入済みの方々にも同封致しました。ご確認下さい。

「出版・刊行された著書等に関する調査」および「第4回日本都市社会学会賞(磯村記念賞)受賞対象候補の推薦」に関するお願い

日本都市社会学会では、学会活動の参考とさせていただくために、会員の皆様が出版・刊行された著書等(論文は除く)に関する調査を隔年で行っております。また併せて、第4回日本都市社会学会賞(磯村記念賞)の受賞対象候補を会員の皆様に推薦(自薦・他薦は問いません)していただきたく存じます。

つきましては、2003年1月から2004年12月末日までに刊行された著書等で、貴殿の単著書・共著書・編著書に当たるもの、および同期間に刊行された著書等で、あなたが第4回日本都市社会学会賞(磯村記念賞)の受賞対象候補としてふさわしいと考えるものを、本ニュース7・8頁をコピーの上(そのままご使用いただいても構いません)、同封した封筒にて学会事務局宛にご返送いただくか、e-mailにてご回答いただきますようよろしくお願い申し上げます(該当する著書が複数ある場合にはそれらをすべてご記入下さい)。

なお、大変申し訳ございませんが、郵送をご利用なさる場合には返送に際してかかる郵送費(80円切手)をご自身で負担していただくこととなりますので、何卒ご了承下さい。また、ご多忙の折誠に恐縮ですが、1月末日必着でご回答いただきますようよろしくお願い致します。(会長 松本 康)

出版・刊行された著書等に関する調査

所 属 :

氏 名 :

2003年1月～2004年12月末日までに刊行されている著書等で、貴殿の単著書・共著書（ただし編著者名のあ
る本に書かれたものは除く）・編著書に当たるものをすべてご記入下さい。

1. 単著書 ・ 共著書 ・ 編著書 （いずれかに をつけて下さい）

書 名 :

出版社名 :

刊行年月日 :

2. 単著書 ・ 共著書 ・ 編著書 （いずれかに をつけて下さい）

書 名 :

出版社名 :

刊行年月日 :

3. 単著書 ・ 共著書 ・ 編著書 （いずれかに をつけて下さい）

書 名 :

出版社名 :

刊行年月日 :

4. 単著書 ・ 共著書 ・ 編著書 （いずれかに をつけて下さい）

書 名 :

出版社名 :

刊行年月日 :

5. 単著書 ・ 共著書 ・ 編著書 （いずれかに をつけて下さい）

書 名 :

出版社名 :

刊行年月日 :

e-mail (UrbanSocio@chs.nihon-u.ac.jp 宛) をご利用なさる場合には、必ず本用紙と同様の回答形式（所属、
氏名、単著書/共著書/編著書の区別、書名、出版社名、刊行年月日）にてご回答下さい。

大変申し訳ございませんが、郵送をご利用なさる場合には郵送費（80円切手）をご負担いただいた上で、同封
の封筒にてご返送下さい。

郵送、e-mail のいずれをご利用の場合でも、1月末日必着でご回答いただきますようよろしくお願い申し上げます。

日本都市社会学会事務局
〒156 8550 東京都世田谷区桜上水3 25 40
日本大学文理学部社会学科 後藤研究室内
E-mail : UrbanSocio@chs.nihon-u.ac.jp
FAX : (03) 5317 9423

第4回日本都市社会学会賞(磯村記念賞)受賞対象候補の推薦について

2003年1月～2004年12月末日までに刊行されている著書等で、貴殿が第4回日本都市社会学会賞(磯村記念賞)の受賞対象候補としてふさわしいと考える作品を下記にご推薦下さい。自薦・他薦は問いません。また、複数挙げて下さっても結構です。

私は、下記の作品を第4回日本都市社会学会賞(磯村記念賞)の受賞対象候補として推薦します。

1. 単著書 ・ 共著書 ・ 編著書 (いずれかに をつけて下さい)

書名 :
出版社名 :
刊行年月日 :
推薦理由 :

2. 単著書 ・ 共著書 ・ 編著書 (いずれかに をつけて下さい)

書名 :
出版社名 :
刊行年月日 :
推薦理由 :

3. 単著書 ・ 共著書 ・ 編著書 (いずれかに をつけて下さい)

書名 :
出版社名 :
刊行年月日 :
推薦理由 :

e-mail (UrbanSocio@chs.nihon-u.ac.jp 宛) をご利用なさる場合には、必ず本用紙と同様の回答形式(単著書 / 共著書 / 編著書の区別、書名、出版社名、刊行年月日、推薦理由)にてご回答下さい。

大変申し訳ございませんが、郵送をご利用なさる場合には郵送費(80円切手)をご負担いただいた上で、「出版・刊行された著書等に関する調査」回答用紙と併せて同封の封筒にてご返送下さい。

郵送、e-mail のいずれをご利用の場合でも、1月末日必着でご回答いただきますようよろしくお願い申し上げます。

日本都市社会学会事務局
〒156 8550 東京都世田谷区桜上水3 25 40
日本大学文理学部社会学科 後藤研究室内
E-mail : UrbanSocio@chs.nihon-u.ac.jp
FAX : (03) 5317 9423